

## 令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

重点目標	具体的取り組み	主担当	実現状況の達成度 判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度へ向けて（改善策等）	最終 評価	
1	授業実践力の向上 (授業改善)	教務課	授業改善に取り組めた教員の割合が  A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	「7月、9月、12月の研究授業や授業整理会、ミニ授業報告会を受けて、自らの授業改善に取り組んだ。」という教員が17人中17人、100パーセントであった。	後期も授業シートの取り組みを継続して行った。研究の係が授業シートから読み取れる工夫や手立ての方法を抽出し、種類別に分け一覧化した。教員の授業改善に有益であった。 また9月、12月、教師の主体性や研究の持続性の評価のため、教師の研究成果に対する肯定感や授業への有効感を調査し調査結果を返していく取り組みを行った。教師の授業改善に関するモチベーションの維持に働いたと考えられる。	A	
		学校関係者評価委員会の評価	①授業改善については自己評価と他者評価があったほうがよいのではないかと。自分には気づけないことにも指導ができると思う。 ②どのように伝える力を育むというテーマに決まったのか。また、授業シートの評価と反省のところで言語で伝えるのが難しい場合はどのようにして伝えるのかを想定して評価をしているのか。コミュニケーションの取り方はどのようなことを想定しているのか。次の手立てや評価をどのようにしていけばよいのか。				
		学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策	①客観的評価は難しい面はあるが、他者の評価を取り入れた評価ができるように検討していきたい。 ②前年度は国語のみで伝える力を研究していた。限られた教員の研究となった感が否めず、全体の指導力向上にはつながらなかったため、全ての教科で行うことになった。コミュニケーション手段としては選択肢を設けている。次第に増やしていくことで自身の中での選択肢を増やしていくことを目標としている。よく使う事柄（トイレなど）はジェスチャーで伝えることで定着につなげようとしている。教師によっては様々な手段で伝えようと指導している方とそうでない方がいるので、どのように共有していくかが今後の課題である。				
2	組織的・系統的なキャリア教育	進路指導課 各学部	アンケートの結果「とても参考になった」「まあまあ参考になった」の合計の割合が  A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	保護者アンケートの結果 1 とても参考になった 8人 2 まあまあ参考になった 9人 3 あまり参考にならなかった 2人 4 参考にならなかった 0人 ※未記入 1人 「とても参考になった」「まあまあ参考になった」の合計の割合は 85.0%	組織的・系統的なキャリア教育として、保護者の方にも早期から児童生徒の将来について見通しをもていただくために、小学部、中学部、高等部、進路指導課からそれぞれキャリア教育の視点での取り組みを「キャリア通信11号」まで情報を提供した。後期では、保護者からの要望があった施設紹介や福祉課との連携などについても情報を提供した。 その結果、最終アンケートの集計は「とても参考になった」「まあまあ参考になった」を合わせた割合が85.0%という結果であった。コロナ禍において、以前よりも保護者間の関わりが少なくなり、オンラインなどでも情報交換ができるようなことが増えれば良いという意見も複数見られることから、保護者参加型の研修会などについて再開できるように計画したい。	B	
		学校関係者評価委員会の評価	・キャリア教育の「轍」はとても素晴らしい。毎号のテーマはどのように設定されているのか。保護者の要望に合わせているのか。				
		学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策	・高等部の子供や保護者の要望が高い、就職に対しての内容を選ぶことが多いが、小・中学部の保護者にも伝えるために内容を選んでいる。保護者からどのような内容をしたいのかアンケートをとって進路課で話し合うことでテーマを選んでいる。今後も保護者の要望を取り入れていきたい。				

重点目標	具体的取り組み	主担当	実現状況の達成度 判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び次年度へ向けて（改善策等）	最終評価
3	安心・安全な学校づくり	生徒指導課	安心・安全に関する情報をテーマ別に深めた内容を加味して発信した回数 A：4回以上 B：3回以上 C：2回以上 D：2回未満	情報をWebページや生徒指導通信で発信した回数が5回であった。	保護者に生徒指導通信1号を通して、前期の活動内容について発信した。また、近隣の市町の福祉避難所の設置状況について情報を提示した。 後期にはグッドマナーキャンペーン、避難訓練（津波）、人権教育講話（いじめ問題）を実施し、学校の安心・安全に関する実践と学習を行い防災と人権についての理解を深めた。次年度は、学校の安心安全関わる情報提供をさらに増やしたい。	A
		学校関係者評価委員会の評価		・福祉避難所は一時避難所であって最初からあるわけではない。行政の方から近くに避難所がないので一時的な避難所として福祉避難所に指定されることになる。また、津波と他の避難所は異なる。		
		学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		・福祉避難所について市町の担当課に問い合わせ、詳しい情報を保護者に発信していきたい。		
4	業務の効率化	全職員	各自の校務分掌の課題を把握し見直しや整理に取り組んだ教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	職員アンケートの結果 業務の効率化を図ることが 1 できた 4人 2 まあまあできた 13人 3 あまりできなかった 3人 4 できなかった 0人 であり、1 できた、2 まあまあできたを合わせた割合が85%であった。	業務の効率化を重点項目にして4年目である。この間職員の業務に関する意識は勤務時間の調査をすることで、限られた時間の中で効率的な業務を目指すようになってきている。データを共有しやすくしたり、手続きの簡素化・システム化等の取組がみられた。 一方で業務の偏りや固定化の課題があり、業務の効率化を更に進め、これらの改善を目指す必要がある。	A
		学校関係者評価委員会の評価		・教師は残業も固定費に含まれている特殊な実態。業務の効率化になっているが、コロナ禍になって増えた仕事があるのでは？効率化したからといって残業は減っていない、負担が増えたのではないのか？		
		学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		・休憩時間に行っている消毒の時間を補うために、通常業務や会議を短縮しようとするが難しい面もある。業務の効率化をさらに進め、子どもと向き合う時間を多く確保し、ワークライフ・バランスとれた勤務を目指していきたい。		